



羽鳥中 学校だより

～夢 感動 感謝 誇り～ (学校運営スローガン)



Vol.3 6月号 2021.6.1 発行 文責 校長 磯部 求

梅雨入り間近

先月16日に平年よりも20日以上も早く梅雨入りした近畿・東海地方。近畿地方では過去最も早く、東海地方では過去2番目に早い梅雨入りだそうです。関東甲信地方の梅雨入りも平年は6月7日ごろですので、もうまもなくといったところでしょうか。

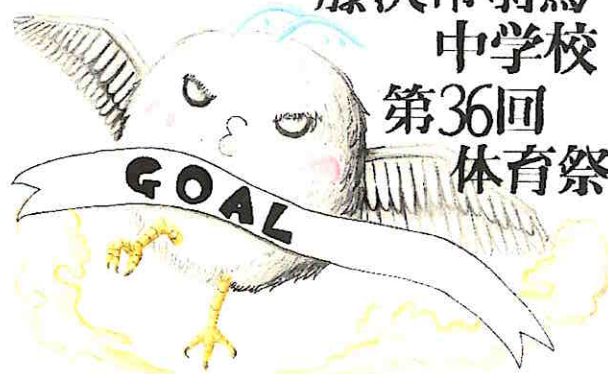
梅雨を迎えると傘をさして道路を歩く機会が増えてきますが、傘をさすとどうしても視界が狭まり、近付いてくる車の動きが分かりづらくなります。また、車の運転者も雨により視界が悪くなり歩行者の発見が遅れるなど、交通事故の危険性が高まります。交通事故の当事者にならないためには、歩行者も車も交通ルールをしっかりと守ることが重要です。横断が禁止されている場所での危険な道路の横断や歩行者信号を無視しての道路の横断など、日頃からしないように注意しましょう。



第36回体育祭に向けて

昨日朝のブロック結団式より、体育祭練習期間に入りました。すでにお知らせしておりますとおり、今年度の体育祭においても保護者の方及び地域の方の参観はできませんので、ご了承ください。昨年度に引き続き体育祭の実施にあたっては、感染症防止対策を考えた種目や競技方法、日程で計画しております。体育祭は縦割りブロックで行う唯一の学校行事であり、各学年で身につけて欲しい姿勢、学級・学年・学校全体の絆を深めることのできる、教育効果の高い活動となります。競技はもちろん与えられた係等の仕事に一生懸命取り組み、仲間に対しての応援や他ブロックに対してのリスペクト（敬意を表す）を心がけ、感動に満ちあふれ、思い出深い体育祭になることを期待しています。

藤沢市羽鳥 中学校 第36回 体育祭



〈今年の体育祭シンボルマーク〉

体育祭成功三箇条

感動に満ちあふれ、思い出深い体育祭にするために、次の三つのことを心がけましょう。

- 一、競技・役割に全力を尽くす
- 一、競技者をしっかり応援する
- 一、勝敗がついたら 互いに拍手で讃え合う

男子バレーボール部初公式戦

昨年度3年ぶりに入部のあった男子バレーボール部が、4月29日(木)に復活して初めての公式戦に臨みました。男子バレーボール部は昨年6月から1年生のみの活動で先輩からの指導もないなか、前顧問の白倉先生と一緒に基



本のパスから練習を積んできました。何とか試合ができるようになりデビュー戦となるはずだった3月の市内大会が緊急事態宣言で中止になり、今回の三市一町大会兼県選手権湘南地区予選会が初の公式戦のみならず初の対外試合となりました。結果はともあれ、初めての対外試合に物怖じもせず堂々とプレーしていた姿が印象的でした。

初公式戦の感想

男子バレーボール部主将 北原 千陽

結果から言うと1セット目が10-25, 2セット目は11-25と言う、さんざんな結果でした。他のメンバー達も緊張していつもの動きができなかったり、声が出ていなかったように感じられるところもありました。それらが僕らの実力と相俟ってこのような残念な結果になってしまったのだと個人的には思いました。けれどここで負けたからこそ見えてきた課題も多々ありましたので、次の公式戦に向けて、その一つ一つを潰していけたらと思います。負けは負けですが、その負けを少しでも次回へと繋いでいこうという決意が部員個々に表れてきたと思いますので良い経験になりました。(原文のまま掲載)

2年ぶりのプール清掃

5月24日(月)に6組の生徒と2年生の体育の授業でプール清掃の仕上げを行いました。2年ぶりとなるため、今年は事前に体育科教員で清掃を行い、最後の仕上げを生徒に行ってもらいきれいになりました。



先生達も頑張っています

5月20日(木)に神奈川県教育委員会湘南三浦教育事務所指導課の福田指導主事をお招きして、



新学習指導要領の適切な実施をめざした校内研究会を行いました。これまで何回か研究会を行ってきましたが、とてもわかりやすいお話で、活発な質問や意見交換が行われ、子ども達に対しての先生方の真剣さが伝わってきました。

教職大学院における「学校実習」

本校は今年度より2年間、横浜国立大学教職大学院の『教職大学院における「学校実習」』の連携協力校となります。この学校実習は教員を養成する教職大学院が、すでに教員免許を取得している大学院生に対して、これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上をめざしたカリキュラムの一つとして実施されるものです。本校には、6月より毎週金曜日に横浜国立大学教職大学院の『小島雄大』さんが実習にいらっしやいます。理科の教科指導をはじめ、委員会活動や部活動、学校行事などでも生徒の皆さんと関わりを持つこととなりますので、よろしくお願ひします。